

Title	平成22年度プロジェクト科目年度末報告会
Sub Title	Project course 2010
Author	桃生, 朋子(Mono, Tomoko)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	活動報告書 Vol.4, (2010.) ,p.32- 32
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20110300-0032

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

平成22年度プロジェクト科目年度末報告会 Project Course 2010

13

開催日 2011年2月7日
企画 全体
講演者 平成22年度プロジェクト科目履修者

2011年2月7日(月)、2010年度プロジェクト科目報告会が行われた。まず慶應人文グローバル COE 拠点リーダーの渡辺茂教授より挨拶があり、その後、それぞれのプロジェクト履修者から報告があった。まずプロジェクト A の松田壮一郎氏(タイトル: Mechanisms of limitation — a near infrared spectroscopy (NIRS) study —)、佐藤有理氏(タイトル: オイラー図・ヴェン図を用いた図形推論の fMRI 研究)、玉田圭作氏(タイトル: 我々はどうマンガを読んでいるのか? — 4コママンガ読解時の眼球運動を通じて —) より報告があった。次にプロジェクト C の吉原友美氏・永井敦氏・桃生朋子氏(タイトル: 日本語形容動詞における空コピュラ「の」) より報告があり、休憩を挟んでプロジェクト D の山根千明氏(タイトル: 会が印象における明暗コントラストと違和感)、大沼麻実氏(タイトル: アルコール依存者を AA へとつなげる中間施設マックのプログラム) の報告があった。最後にプロジェクト E の北村直彰氏(タイトル: Supersubstantialism の検討 — 形式的存在論的観点から —) より報告があった。報告終了後、それぞれのプロジェクト責任者から講評が述べられた。その後、社会学研究科委員長の杉浦章介教授より挨拶があり、最後に杉浦教授より履修者に修了証が授与された。

プロジェクト科目の目的は、分野の垣根を越えた議論を実現することにより、自身の研究のさらなる発展を促すところにある。この目的を果たす過程で生まれる利点は多々あり、例えば様々な視点を融合させることで、新たな興味深い視点を生み出す点、自身の研究を客観的に見直せる点がある。特に後者は重要かつ見落としがちな点であり、今回の報告会を通し、その重要性に改めて気付かされた。(桃生朋子)

A debriefing session for “Project Course 2010” was held on the 7th of February, 2011. After seven oral reports of multidisciplinary topics, each student was awarded a certificate of completion.

